

# さけ・ます漁業振興事業調査（サクラマス関係）

（抄 録）

高 坂 祐 樹

## 市場・魚体測定調査

1997年から1998年にかけて全県で143,363尾のサクラマス幼魚を放流し、うち60,225尾にリボntag標識を装着して放流した。リボntag装着魚の南下期の標識率は太平洋老部川放流群が0.09%、陸奥湾川内川放流群が0.07%、日本海吾妻川放流群が0.03%であった。太平洋老部川では0才幼魚を10,000尾秋放流したが、再捕は南下期に1尾のみと再捕率は低かった。

## 幼魚混獲調査

採集されたサクラマス幼魚は太平洋地区が220尾、日本海地区が166尾で合計386尾であった。胃内容組成は、太平洋地区が魚類56%、次いでアミ類とタンキヤク類が34%を占めていた。一方、日本海地区は魚類が97%を占めていた。1998年では両地区とも魚類の割合が例年に比べ、高い傾向となった。しかし、これまでの知見どおり、日本海地区より太平洋地区の方が餌料生物の多様性が認められた。

## 漁獲量調査

1998年の青森県全体のサクラマス漁獲量は298トンで前年より26%の増加となった。漁獲金額は290百万円、平均単価は974円/kgであった。

平成8年度の水揚量データ並びに市場調査による標識魚混入率を用いて、海面における標識魚の水揚げ尾数・水揚量を推計した。標識魚の推定水揚げ尾数は青森県全体で12,827尾（水揚げ全体の5.5%）であった。1尾あたりの標識魚の推定体重は1,215gで、全水揚げの平均体重の1,158gを若干上回った。

今後、標識魚中の本県で放流されたサクラマスの割合や、切除された鰭の再成率などを考慮し、推定精度の向上を目指したい。